

(記者発表資料)

新しい天敵タバコカスミカメによるトマト害虫の防除技術を確立

担 当 静岡県農林技術研究所
連絡先 植物保護・環境保全科 TEL 0538-36-1556

内 容

トマト栽培では、殺虫剤が効きにくい害虫タバココナジラミ（図1）が問題となっています。そこで、新しい天敵を活用した、トマト施設栽培用の防除体系を開発しました。

1 天敵の特徴

- ・新しい天敵であるタバコカスミカメ（図2）は、体長3～4mmのカメムシで、1日に40～50頭のコナジラミ幼虫を食べます。
- ・本天敵は、微小昆虫の他に、バーベナ等の植物でも増やすことができます。
- ・本天敵は、令和3年5月に農薬登録され、7月から市販されています。

2 利用方法

- ・トマト苗に使用された農薬の影響がなくなった後（影響期間は約1ヶ月）、すぐに、トマト2株あたり1頭のタバコカスミカメを放飼します。
- ・天敵放飼と同時に、バーベナのプランターを1aあたり1鉢置き、天敵を増やします。
- ・天敵放飼後は、タバコカスミカメに影響しない農薬を利用します。
- ・農薬登録上の適用がトマト（施設栽培）に限定されるためミニトマトでは使用できません。

3 効果

- ・現地ほ場における試験において、天敵を利用した防除体系では、農薬のみの防除に比べて、殺虫剤の使用回数を半減した防除に成功しました。

4 マニュアル

- ・天敵タバコカスミカメを利用した防除体系のマニュアルを、以下のサイトで公表しています。

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/SIPtomatomanual_4cyuubu.pdf

なお、本研究の一部は、内閣府戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）「次世代農林水産業創造技術」（管理法人：農研機構 生研支援センター）により実施されました。



図1 害虫タバココナジラミ（成虫）
体長約2mm 幼虫は葉裏に固着し、多発すると果実の着色異常を発生、この他にウイルス病も媒介する



（上：卵、下：幼虫）



図2 天敵タバコカスミカメ（成虫）
成虫の体長約3～4mm 昆虫の卵や幼虫を補食、特定の植物でも発育できる